

7 8 巴塚・葵塚 ともえづか・あおいづか

巴と葵は、義仲とともに戦った勇猛な女武将。葵は砺波山で討死、巴は色白・美麗、また騎馬乗り・弓矢の達人で一人当千の活躍をしたという。



9 中たるみの茶屋跡 なかたるみのちやああと

古来より北陸道を通る人が砺波平野を見渡し、中休みしたところ。

10 峠(天池)茶屋跡 とうげの(あまいけ)ちやああと

昭和の初め頃まで茶屋のあったところ。

11 矢立 やだて

矢立山周辺は、義仲軍の最前線であった所。幅約200m程の谷を隔てた塔の橋より平家軍が矢を放ち、ここに多くの矢が立ったことが「矢立山」の名の由来。

12 塔の橋 とうのはし

平家軍の最前線だったところ。矢立山の今井兼平軍に矢を放った場所。

13 源氏ヶ峰 げんしがみね

倶利伽羅合戦において、平家軍陣地だったこの峰を義仲軍が占領したので、この名がつけられたという。

14 砺波山の詞碑 となみやまのしひ

儒学者木下順庵と加賀藩の学者富田景周の火牛の戦法をたたえた詞の碑。

15 猿ヶ馬場 さるがばば

倶利伽羅合戦において、平家の総大将 平維盛が本陣をおいたところ。ブナ林の中に軍議石と本陣跡標柱、その奥には伝説の猿を祀った猿ヶ堂がある。

16 ブナ原生林 ぶなげんせいりん

市指定天然記念物。高山植物である「ぶな」が250m程の低所に自生している珍しい林。

17 芭蕉塚 ばしょうづか

～義仲の寝覚めの山か 月悲し～
松尾芭蕉が義仲に想いを馳せ、越前燧ヶ城で詠んだ句であるが、義仲の最も輝かしい勝利を収めた倶利伽羅合戦のことを詠ったともいわれる。

18 倶利伽羅小道 くりからこみち

当時の面影を残す旧北陸道跡。

19 源平供養塔 げんへいくようとう

高さ 6.8m の五輪塔。合戦において犠牲となった源平両軍の兵士の霊を弔うため、昭和49年に建立され、毎年5月12日に追悼法要が営まれている。

20 平為盛塚 たいらのためもりづか

平為盛は、総大将 平維盛の部将として戦ったが、義仲軍の夜襲により敗走。翌日夜明けるとともに手兵 50 騎を率いて義仲軍に逆襲したが、義仲の部将 樋口兼光により首をはねられた。この勇猛な武将を弔って建てられたもの。

21 蟹谷次郎碑 かにだのじろうひ

義仲軍の先導を承った郷土の蟹谷次郎を讃え、源氏太鼓保存会が建立。戦勝を祝って打ち鳴らした勝鬨太鼓が「源氏太鼓」として伝承されている。

22 倶利伽羅不動寺 くりからふどうじ

小矢部市と石川県津幡町との境界に位置する日本三不動の一つ。奈良時代初期の養老2年(718年)に、中国から渡来したインドの高僧、善無畏三蔵が北陸路巡錫の際、砺波山山中に棲み村人や旅人に災いをかける魔物を倶利伽羅竜王を勧請して退治し、その不動明王を祀った。このことからこの地を倶利伽羅と呼ぶようになったという。



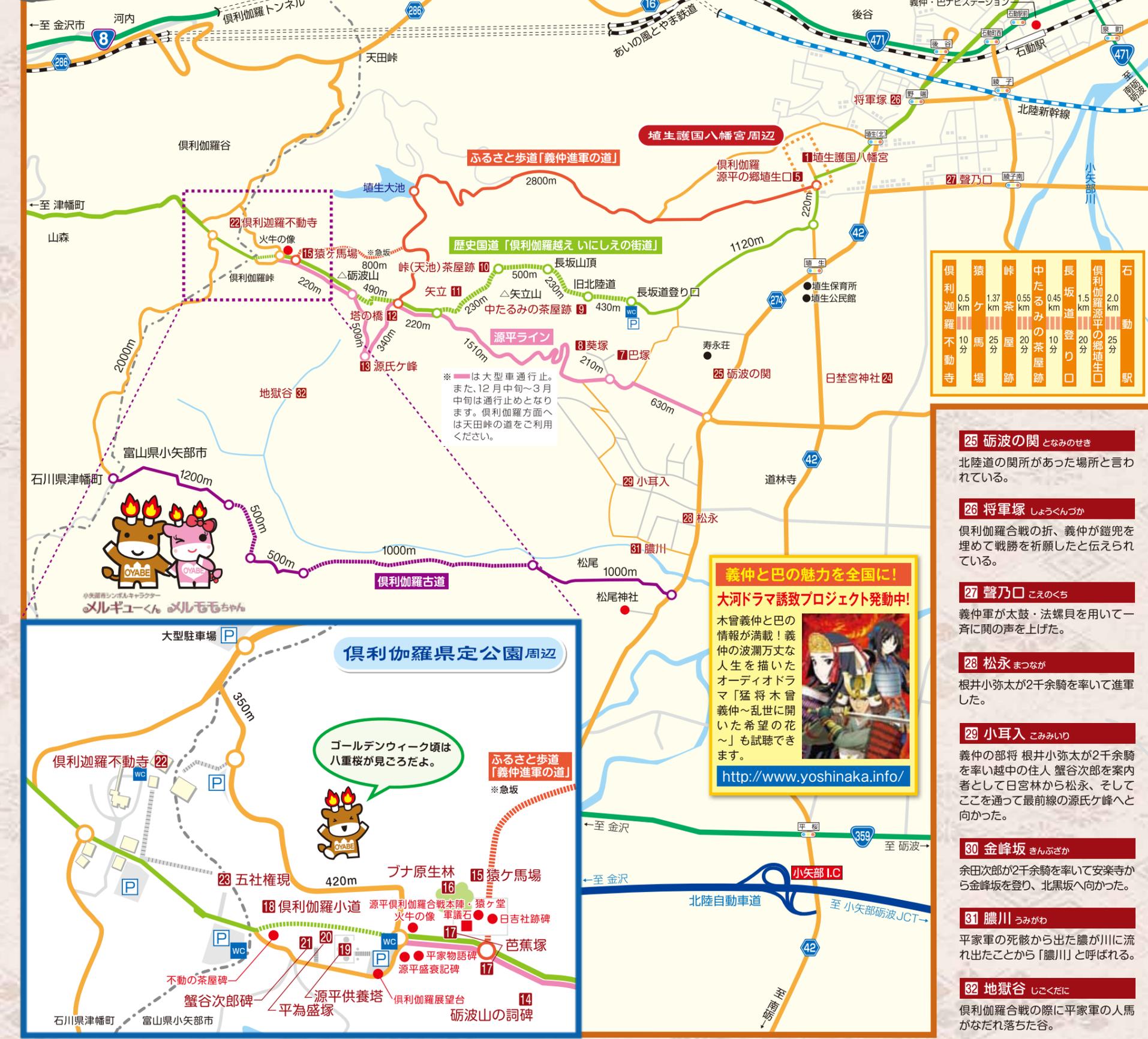
23 五社権現 ごしゃこんげん

手向神社の末社。不動明王は長楽寺(現不動寺)に祀られたので、四社となっている。

24 日笠宮神社 ひのみやしんじや

今井兼平が先遣隊 保科党を遣わして、源氏の白旗 30 梳を打ち立てて、砺波山にいた平家軍に「源氏は大軍なり」と心胆寒からしめた「日宮林」の一部。

小矢部市 歴史散策マップ



石動駅には、観光案内所があるよ。
10:00~18:00
休/月曜日
TEL.0766-68-1062

義仲と巴の魅力を全国に!
大河ドラマ誘致プロジェクト発動中!

木曾義仲と巴の情報が満載! 義仲の波瀾万丈な人生を描いたオーディオドラマ「猛将木曾義仲～乱世に開いた希望の花～」も試聴できます。

<http://www.yoshinaka.info/>

25 砺波の関 となみのせき
北陸道の関所があった場所とされている。

26 將軍塚 しょうくんづか
倶利伽羅合戦の折、義仲が鎧兜を埋めて戦勝を祈願したと伝えられている。

27 磬乃口 かねのくち
義仲軍が太鼓・法螺貝を用いて一斉に関の声を上げた。

28 松永 まつなが
根井小弥太が2千余騎を率いて進軍した。

29 小耳入 こみみいり
義仲の部将 根井小弥太が2千余騎を率い越中の住人 蟹谷次郎を案内者として日宮林から松永、そしてここを通って最前線の源氏ヶ峰へと向かった。

30 金峰坂 きんぶざか
余田次郎が2千余騎を率いて安楽寺から金峰坂を登り、北黒坂へ向かった。

31 膿川 うみがわ
平家軍の死骸から出た膿が川に流れ出たことから「膿川」と呼ばれる。

32 地獄谷 じごくだに
倶利伽羅合戦の際に平家軍の人馬がなだれ落ちた谷。